

特集

[老後をいきいきと暮らす]

「ヒュッゲ」なサードエイジの住まい

クルーア軽井沢の誕生とデンマークのインスピレーション

株式会社 PLAN 一級建築士事務所 齋藤 光代

ヒュッゲ

ヒュッゲ (Hygge) とは、「人と人とのふれあいから生じる温かく居心地のいい雰囲気」。デンマークで最上級のほめ言葉。

日本の世帯

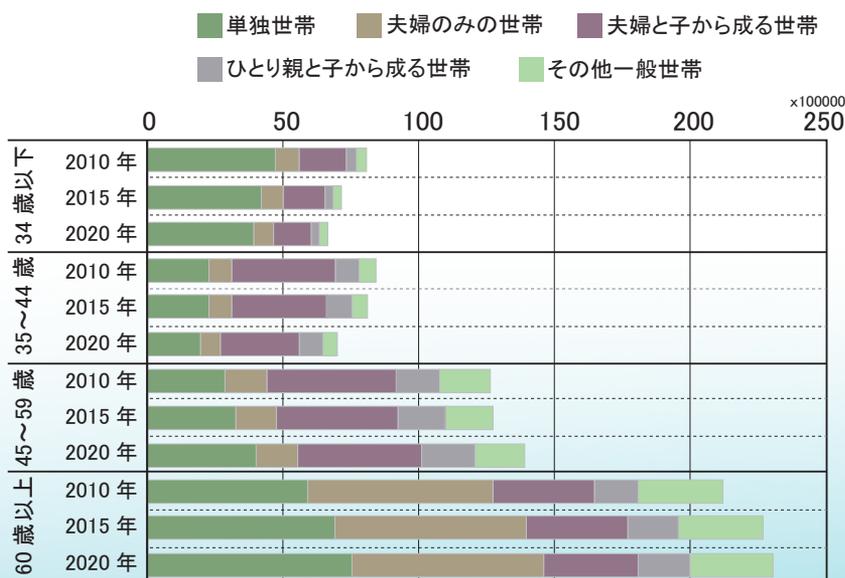
長寿大国日本。日本の65歳以上の人口は28.4%で世界一である（総務省の2020年発表）。高齢者は昔のように息子家族と一緒に住んで孫の世話を手伝っている、と思っている人は意外と多い。図-1を見て欲しい。2009年の予想だが2020年には全世帯の63%が単独世帯あるいは夫婦のみの世帯となるという。その

他の世帯は37%である（出典：国立社会保障・人口問題研究所 2009年）。つまり世帯の2/3近くが単身あるいは夫婦のみの世帯になってしまうと言うのである。

一生の3つのフェーズ

人生の最初のフェーズは誕生から成長する学びの時期（ファーストエイジ）、次が就労と子育ての時期（セコンドエイジ）、それが終わると退職、離職など現役を退き年金生活による時間的余裕のある時期がやってくる。このフェーズがサードエイジである。サードエイジが語られるようになったのは比較的最近のことだ。

その要因としては、以前は退職後の期間が短かったこと、また、2000年に介護保険制度が始まるまでは、高齢者介護は各々の家庭に任されており、この課題をいかに家族で乗り越えるかが大きく、それ以外は考える余裕もなかったことが挙げられる。現在、介護保険制度導入から20年の歳月を経て、介護保険によって国民の「大半」の高齢者が介護を受けられるようになった。今日サードエイジはマイノリティーではなく、ファーストエイジやセコンドエイジに並ぶ独立した人生のステージとして捉えられなければならない。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」2009年12月推計

図-1 | 社会的背景近年の世帯主年齢別の世帯の変遷



写真-1 | デンマーク「ヒュッゲ」な住まい PLAN設計